

第4節 常盤構内(山口大学工学部構内遺跡)の調査

1. 工学部女子学生寄宿舍新営その他工事に伴う予備発掘調査

調査地区 常盤構内常盤寮2寮西側道路および東側空地

調査面積 24m²

調査期間 平成20年5月19日～27日

調査担当 横山成己 藤野好博

調査結果

(1) 調査の経緯(図105、写真250)

常盤構内北東部、現在の常盤寮北側駐車場敷地において女子学生寄宿舍新営が計画されたことを受け、平成19年度第12回埋蔵文化財資料館専門委員会(平成20年3月5日開催)にて予備発掘調査の実施が承認された。

女子学生寄宿舍は、現在駐車場として活用されている埋め立て地が建設予定地であり、周知の埋蔵文化財包蔵地外に当たるため、現状の常盤寮周囲に新規布設される配管工事予定地を調査対象地とすることになった。配管は新営女子寮から常盤寮2寮の北側を通り国際交流会館A棟西側を抜ける計画であったが、平成7年に実施された国際交流会館新営工事に伴う試掘調査^{注1}成果から、国際交流会館A棟周囲に埋蔵文化財が遺存する可能性は低いと判断されたため、常盤寮2寮西側南北配管ルートと東側東西ルートにそれぞれ調査区を設定し、予備発掘調査を実施した。

(2) 調査の経過

第1調査区は常盤寮2寮西側配管予定地に南北20m×幅1mの範囲で、第2調査区は同じく常盤寮2寮の北東側配管予定地に東西長7m×幅0.6mの範囲で設定した。調査スケジュールは以下の通りである。

【第1調査区】

5月19日(月)…機材搬入、仮囲い、重機掘削開始

5月20日(火)…重機掘削終了・調査区内精査

5月21日(水)…写真撮影・測量

5月22日(木)…測量・埋め戻し開始

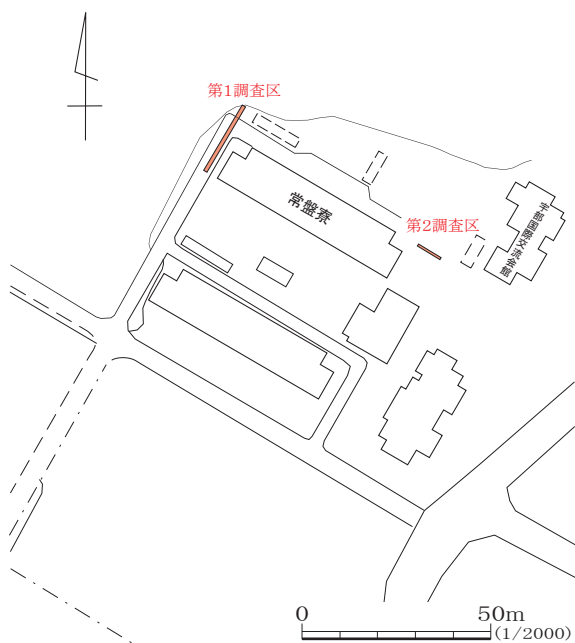


図 105 調査区位置図



写真 250 調査区周辺遠景 (東から)

5月23日(金)…埋め戻し終了・仮囲い撤去・機材伴出

【第2調査区】

5月23日(金)…機材搬入・仮囲い

5月26日(月)…重機掘削・調査区内精査・写真撮影

5月27日(火)…測量・埋め戻し

(3)層序(図106、写真251～258)

【第1調査区】

調査では現地表(調査区北端標高33.2m・調査区南端標高33.0m)下で最大1.2mまで掘削を行ったが地山は検出できなかった。更なる掘削は配管工事に影響が及ぶことが予想されたため、開発部局と協議の上掘削を中止した。層序は第1層:アスファルト(5cm)、第2層:碎石(30cm)、第3層:真砂土を含む造成土(80cm以上)である。造成土中から遺物は出土していない。

【第2調査区】

第2調査区の現地表は標高33.2mであり、調査区西部で検出した既設管理設部以外では標高32.6m地点で地山を検出した。層序は第1層:表土(20～30cm)、第2層:造成土(20～30cm)、地山:明黄褐色(10YR6/8)砂質土である。大学造成時に旧地表および地山が大きく削平を受けたようであり、遺構が遺存する状況にはなかった。表土、造成土中に遺物の混入は見られなかった。

(4)小結

平成7年度に第2調査区東側で実施された国際交流会館新営に伴う試掘調査では、調査区北端部において旧耕土が確認されている。このことはつまり常盤構内北西端部においては大学造成前の旧地表面が遺存していることを示している。またその下位には性格不明の段状遺構が検出されており、遺跡の性格を把握する上で重要な資料となっている。

常盤構内の他地域では大学建設時の造成により旧地形が激しく削平を受けているため、埋蔵文化財が過去において遺存していたとしても確認できる状況にない。今回の調査では埋蔵文化財は確認されなかったが、国際交流会館B棟周辺では今後とも地下の掘削計画に際しては慎重な対応が必要と考えられる。

【註】

1) 村田裕一(2004)「第1章 常盤構内国際交流会館新営に伴う発掘調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報XVI・XVII』,山口

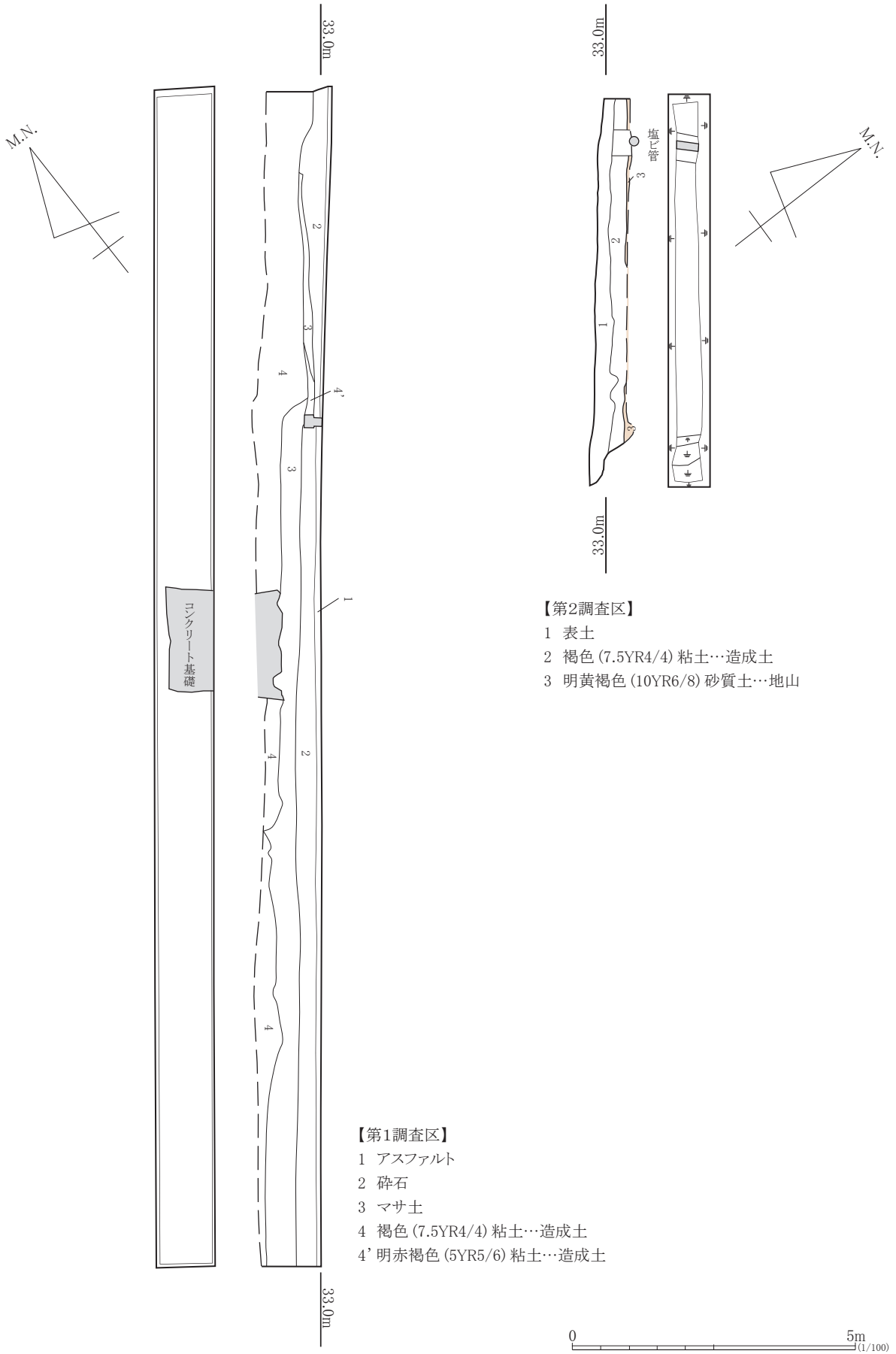


図 106 第1・第2調査区平面図・断面図



写真 251 第1調査区全景 (北東から)



写真 252 第1調査区全景 (南西から)



写真 253 第1調査区南西壁断面 (北から)



写真 254 第1調査区南西壁断面 (西から)



写真 255 第1調査区作業風景



写真 256 第2調査区全景 (西から)



写真 257 第2調査区全景 (南東から)



写真 258 第2調査区南西壁断面 (東から)